

●東洋大学社会福祉学会 第13回大会／2017年8月

【シンポジウム】

福祉作業所におけるストレングス視点を考慮した 知的に障害のある人への支援

東洋大学社会学部
小泉 隆文

【要旨】

ストレングス視点に基づいた援助とは、病理・欠陥に着目されてきた支援を見直し、本人の長所や強みに着目した援助方法である。

実際に作業所においてストレングス視点に基づいた支援を行った場合、これまで以上に作業に対して積極性が見いだされたり、生活リズムが安定したという効果がみられている。

このことは、本人が自らの希望を達成したり、役割を与えられたりすることによってエンパワメントされ、そのことが結果的に効果をもたらしているといえる。

課題としては、ストレングスに着目した支援を行っている作業に特化してしまう可能性があること、その作業の継続性、支援者がストレングスを見つけるためには細かな気づきなどが必要となる点である。

【キーワード】 ストレングス視点、達成感、エンパワメント

1. はじめに

ソーシャルワーク実践理論にストレングス視点が登場してきたのは1980年代といわれている。その背景には、すべての個人・グループ、家族、コミュニティはストレングスを持つという援助原理に基づいていた¹⁾。

ストレングス視点は、病理・欠陥の視点から行われていた支援を転換し、本人の長所などの強みに視点をおいた援助方法である。

この流れは現在も受け継がれており、福祉作業所における利用者支援でも行われてきている。し

かしその一方では、従来のように、原因をつきとめて解決をしようとする病理的視点に基づく支援を行っている場合もある。

本稿では、ストレングス視点に基づいた支援を実践しているケースについて検討し、ストレングス視点での利用者支援がどのような影響を及ぼすかについて考察することが目的である。

2. 研究方法と倫理的配慮

本稿では、知的に障害がある人が通所する福祉作業所の実践事例を示し、ストレングスに視点をおいた支援の実態について検討を行う。具体的には以下のようなものである。

第1に、ストレングス視点についての理論を整理する。狭間による社会構成主義に基づいたストレングス視点に関する議論や、実際に個別支援計画に適用する際の議論、ラップの精神障害者に対する生活支援における支援に関する議論について整理する。

第2に、福祉作業所で行われている複数の作業について、利用者に対してどのようなストレングス視点に基づいて支援しているかについて、参与観察の結果から検討する。作業は何種類もあるが、それぞれの作業において、利用者のストレングスを考慮し、作業における利用者の役割を明確にしている。また、日常の作業の状況も個別支援計画に反映されていることから、支援計画の一部としてストレングス視点に着目しているケーススタディといえる。

第3に、ストレングス視点に基づいた支援がどのような影響を及ぼすのかについて考察する。具体的には、エンパワメントに着目して考察を行い、

ストレングス視点に基づいた支援について課題を示す。

なお、倫理的配慮については、参与観察を行う際に、利用者に研究発表する旨の説明を行い、同意を得ている。

3. スtrenグス視点とは

本章では、ストレングス視点について、整理してみる。

サリービーは、個人、グループ、家族、コミュニティはストレングスを持ち、外傷経験、虐待、病気は苦しみではあるものの、それらは挑戦と機会の源となるという考え方を示している²⁾。

小澤によると、ストレングスの視点を次のように整理している。ストレングスには個人のストレングスと環境のストレングスがある。個人のストレングスとは、熱望（強い願望）、能力（過去に行ってきたことを含めた能力）、自信（目標に向かって段階的に進む）であり、環境のストレングスは、資源、社会関係、機会の領域があるとしている³⁾。

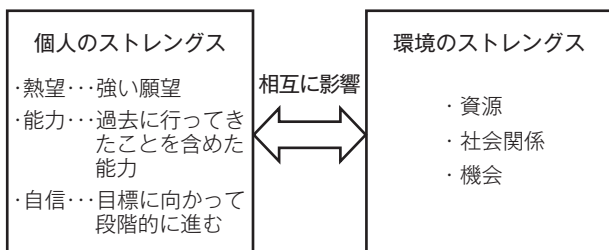


図1 スtrenグスの6領域

資料：小澤監修・埼玉県相談支援専門員会編（2015）より作成。

そもそもストレングス視点は、社会構成主義の影響を受けたものであるといわれる。狭間によると、社会構成主義とストレングス視点の共通性は、①知識の法則性が相対的、②言説所重要視、③変化の可能性、④関係性・文脈主義と4点を整理しているが、これらの視点は、専門職主体の実践に偏ったことの反省から生まれた援助観であると述べている⁴⁾。

精神障害者のケアマネジメントにおいてストレ

ングスの重要性を説いたラップは、環境のストレングスについて、個人のストレングスを図2のように示している。

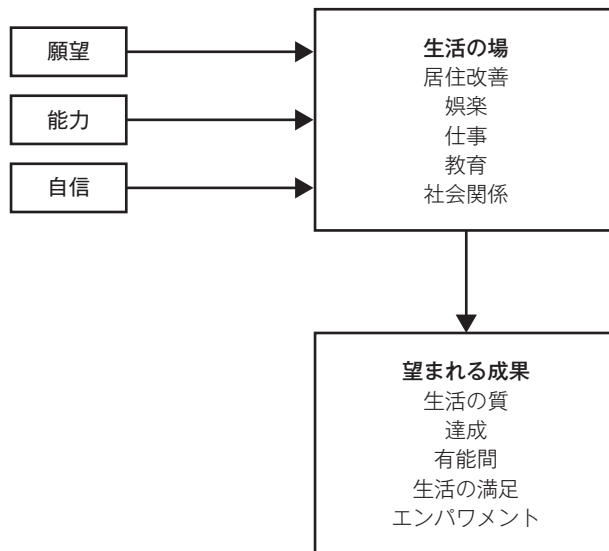


図2 個人のストレングス

資料：チャールズ・A・ラップ、リチャード・J・ゴスチャ（2008）より作成。

個人のストレングスは、個人の熱望や能力、自信が生活の場で実現することによって、生活の質が良くなったり、達成感を得ること、エンパワメントに効果が表れることを期待できると述べている。すなわち、本人の長所に視点を当てた支援は、これまでの生活の質を改善することにつながる。また、これまであまり自信が持てなかったことに対して達成感を得ることもできる。そのことで、本人がエンパワメントされることにつながる。また、それらは社会参加しているという実感を持つことになることも考えられる。

次章では、生活の場、特に「仕事」に焦点を当て、福祉作業所での例について検討する。

4. A福祉作業所における実践事例

(1) A福祉作業所の概要

本稿の事例となるA福祉作業所（以下、A作業所）は、主に知的障害者を対象とした通所型の障害者支援施設である。都内に位置し、就労継続支援B型、

就労移行支援、自立訓練（生活訓練）を行う小規模多機能型の作業所である。

2017年7月現在で、小規模な作業所設立から40年以上が経っているが、社会福祉法人となつてからは15年となる。主に行われている作業は、資源回収、アルミ缶作業、ペットボトル仕分け、せんべい焼き、喫茶業務、室内での簡易作業、農作業である。

各作業の配置は、支援者が決定しているが、その際には利用者の得手不得手や利用者同士の相性などを考慮して決定している。

（2）作業別にみたストレングスを考慮した支援

以下、A福祉作業所で行われている代表的な作業ごとに、ストレングスを考慮した支援がどのように行われているか、また、A福祉作業所の利用者にとどのような影響を及ぼしているかを整理してみたい。

①資源回収

A福祉作業所で中心的な作業である。設立当初から行われている作業であり、市の全域を対象としている。月曜日から金曜日にかけて提携している商店、病院、学校、福祉施設、公的機関などを回るが、さらに金曜日は個人宅（個人住宅、集合住宅）を回収している。ワゴン車に利用者や支援者が乗車し、各回収場所を回っている。障害が重度な利用者は近隣を歩いて回収している。

資源回収は、「回収物を運び、車に積む」という単純な作業ではあるが、利用者は置き場から車まで資源を運搬することが主な業務である。利用者が運んできた資源を車に積み込むのは主に支援者である。その理由は、積み込んでいる途中で荷台から資源が崩れて落ちてきてしまったりするからである。しかし、軽度の利用者や希望する利用者が積み込みをする場合もある。

A作業所では、「車に積む」作業については、ストレングス視点を重視した支援がみられる。利用者のBさんは、毎日出勤する約束がなかなか守れなかった。出勤は週に2日で、出勤した時も終日作業をすることはなく、午前中の半日で帰宅してしまっていた。ある日、Bさんから資源回収の積

み込みを行いたいと申し出があった。Bさんの障害は軽度で、以前、積み込みの経験もあり、作業自体は可能であった。そこで面談をし、積み込みをお願いすると、職員よりも積み込み作業がていねいであり、日常よりも多くの資源を車に積むことができた。その結果、Bさん以外のメンバーや職員からも称賛されることとなり、1日でも多くA作業所に来て仕事をしたいと希望するようになった。精神面の問題もあるので、勤務時間を倍増させることはできなかったが、出勤日をもう1日増やして週に3日とし、そのうち1日は朝から夕方まで出勤することとなった。

毎日通勤していなかった利用者に、得意な積み込みを任せることで、出勤日数・時間数が増加したという例である。

②農作業

農作業は、近隣農家の協力を経て行っている。主な作業はニンジンの収穫と洗浄、草取り、ベビーリーフの播種などである。

ニンジンの収穫は、ニンジン抜き、根と葉を切るという作業である。葉を切るのは容易ではあるものの、根はどのあたりから切ればよいかかわからない利用者がある。また、ハサミをうまく使えない利用者もいる。

ニンジンの洗浄は、収穫したニンジン洗浄機まで運び、ブラシのついた水槽の中に入れ、スイッチを入れて洗浄機を動かし、さらにホースで上から水をかける作業である。この作業はどの利用者にとっても難しい作業ではないようだった。さらに、水を扱うのが好きな利用者は率先して行う作業でもある。

草取りは、カマや小さなスコップを使って行う作業である。草が生い茂っているところはカマを用いて草を刈り、根は小さなスコップを用いて掘り返す作業である。カマを使うのは難しいので、使える利用者にもみ作業してもらったが、小さなスコップはどの利用者も上手に使うことができていた。

ベビーリーフの種まきは、苗を作りパットに土を入れ、種を播く作業である。スコップでパットに土を入れ、指で穴をあけて7～10粒の種を播く

のであるが、種が小さいためにどうしても多くの種を播いてしまう利用者がある。

ニンジンの作業において、ストレンクス視点からの支援がみられる。前述したように、この作業にはハサミを用いるが、利用者の中にはハサミを上手に使用できない人もある。このような場合、ハサミを使用できる利用者が、ハサミを利用できない利用者の作業をフォローする必要がある。1日の作業ノルマは決まっているからである。A作業所でハサミを上手に使用できるCさんが、ニンジン収穫作業を行う頻度が高い。ハサミを使用できない利用者がニンジン土から抜く作業に徹し、Cさんが、収穫されたニンジンの根と葉を切るという分業体制をとっている。Cさんは進んでハサミを使う作業を行うことによって自信がつき、また、自分はハサミを使うのが他の利用者よりも上手であるということCさん自身が認識する。このことで、自分は「ハサミを使って作業を行う」という役割を担い、あたえられた作業は確実に行うことができるようになった。

③煎餅焼き作業

煎餅焼き作業は、A作業所室内の煎餅製造室で行っている。衛生には注意しなければならないことから、白衣、帽子、マスク、エプロンの着用を義務づけている。

製造した煎餅は、A作業所内の店舗や、作業所が運営している喫茶店、作業所主催の行事で販売するほかに、社会福祉協議会や特別養護老人ホームなどへの定期的な訪問販売を行っている。通常の型焼きのほかに、特別注文品として、専門学校、社会福祉協議会、寺院には、オリジナルの焼き型を用いた煎餅を製造している。

A作業所がある市のブランド商品にも選定されている。

作業は、前日にタネを作る作業を行う。タネは卵と小麦粉を混ぜてつくるため、卵を割る作業が必要となる。完成したタネを冷蔵庫で寝かせ、次の日の焼き作業の際に機械に入れる。

煎餅焼きの作業は、かなり多くの工程があるため、利用者が携わる作業をまとめて示すと次のようになる。

表1 利用者が携わる煎餅焼き作業の内容

午前	・鉄板に油を塗る	・焼きあがった煎餅をすくい、番重に広げる
	・煎餅をそろえる	・形が悪いものはよける
午後	・シールにスタンプする	・袋詰め
	・清掃	・翌日のタネ作り
		・シール貼り
		・箱作り

煎餅焼きの際に利用者は2名、支援者は2名入る。機械を動かすと10枚の焼き板が回転し、それが1週すると煎餅が焼きあがる。利用者は最初に油を染み込ませた布で鉄板を拭いて油を塗る。その後は機械が1周し、焼きあがった煎餅をアルミの板ですくって取り出し、空の番重に置く。この煎餅をすくう作業は利用者にとっては最も難しい作業である。焼きあがった煎餅はまだ柔らかいため、上手にすくわないと、折れ曲がったり、鉄板に煎餅がくっついたままになってしまい、商品にならなくなってしまふ。そのため、煎餅をすくう作業は固定化されたメンバーが担当している。別の利用者が番重に置かれた煎餅をきれいに並べる。そこで少し煎餅を冷やし、さらに別な利用者が形の悪いものや小さい煎餅を別の番重により分ける。この作業を午前中行う。

午後は、焼き上がった煎餅を袋に入れる。種類によって3枚、7枚、10枚と異なっている。利用者は煎餅の数を数え、割らないように注意しながら袋に入れ、最後に乾燥剤を入れる。その一方で別の利用者は、シールに消費期限の日付スタンプを押す。袋に煎餅を入れ終わったら、消費期限や製造者名を書いたシールと、種類ごとに色分けされたリボン型のシールを貼りつける。

毎日ではないが、贈答用の箱を作る作業を行う。箱は厚い紙を折って組み立てる。3個入り、6個入り、9個入り、12個入りの4種類の箱を折って組み立てる。

一覧の作業が終わった後に、全員で清掃を行う。一人は洗い物、一人は掃除機かけ、一人は拭き掃除を行う。利用者の中で掃除機かけの作業は人気があるため、時間を決めて担当を変えている。

前述したように、煎餅をすくう作業は利用者にとって最も難しい作業であるが、すくう作業にお

いて、ストレングス視点に基づいた支援が行われている。

煎餅をすくう作業を担当するDさんは、もともと不規則な生活を行っていたため、朝から出勤できないことが多かった。Dさんが煎餅焼き作業に入っている間、朝から出勤できない日には、別のすくいができる利用者が担当したり、支援者がすくう作業を行っていた。しかし、Dさんが担当する予定ではない日に担当する利用者は、当初は別の作業の担当になっており、連動して他の作業のメンバーも変更せざるを得なくなってしまう。そのことから、Dさんがすくう作業を担当している日は、なんとかしてDさんに出勤してもらう必要があった。

Dさんは、もともとすくう作業は上手にできていてキャリアも長い。ある日、Dさんが時間通りに出勤し、すくう作業を担当した際に、「やっぱりDさんが来てくれて良かった。長く担当しているから上手ですしね」と。Dさんの作業を賞賛し、次のすくう作業を担当するときにも必ず来てほしいと話したところ、Dさんは役割を与えられたことと、自信がついたためか、煎餅焼きの作業の際には必ず朝から出勤するようになった。しかも、そのことをきっかけに、朝から来る日が次第に増えていった。

このように、強みとなる作業をきっかけに、Dさんの生活リズムが整えられるようになってきた。

5. ストレングス支援がもたらす影響

(1) エンパワメントと関連して

A作業所のケーススタディで明らかとなった、ストレングスに着目した支援と、その影響について表2に示した。これらの事例で明らかになった面は、本人の長所や願望に着目して支援した結果、出勤日数が増えたり、与えられた仕事以外のことにも積極的にかかわるようになっていた。

出勤日数の増加は、それまで不規則だった生活リズムを整える効果として現れ、積極的に仕事を行うことは、役割を与えられることによる達成感を得ることにつながっていった。このことは、

これらの事例から、次のようなことがいえよう。

第1に、ストレングス視点に特化した支援は、利用者の意欲に大いにつながることに意義がある。好きな作業をがんばる→ほめられる→次もがんばる、という流れができることが、作業をしっかりと行うという動機付けになる。

第2に、ストレングスがもたらすエンパワメントは、利用者のエンパワメントばかりでなく、支援者もエンパワメントされる⁵⁾。利用者の希望によって行った作業がきちんと納期までに間に合うようになれば、今まで請け負わなかった作業も積極的に請け負うことを考えるであろう。

図3と図4にはケーススタディからみたストレングス視点に焦点を当てた支援がもたらした効果について図示したものである。

表2 A作業所における作業と利用者への影響

作業名	作業内容	利用者への影響	現れた効果
資源回収	商店、企業、個人宅へ出向いて段ボールや新聞紙を回収。利用者は主に資源を車まで運搬する。	運搬ではなく、資源の積み込みに関心がある利用者に積み込みを担当してもらったところ、出勤日数が増えていった。	生活
農作業	近隣農家の畑に出向き、ニンジン収穫・根と葉の切断・洗浄、ベビリーフの播種、シソの播種・収穫、除草、野菜の運搬を行う。	ハサミを上手に使える利用者担当を任せると、進んではさみを使う作業を行い、ほかの利用者の作業も率先して行うようになった。	達成感
せんべい焼き	タネ作り、鉄板に油をひく、機械からせんべいをすくう、選別、シール貼り、袋詰め、販売。すくいができる利用者は少ない。	毎朝出勤するのが難しい利用者へ、すくう役割を頼んだところ、せんべい当番の日は必ず朝から出勤するようになった。	生活

資料：筆者作成

図3のエンパワメント型は、エンジンの例である。利用者が持っている技術をさらに活かすことによって、本人がエンパワメントされ、そのことが継続していくことを示している。それまではハサミを使うことに加え、さらに役割を与えられることによって自信がつき（B点からC点）、そのことが継続している。B点において「ハサミを上手に使える」というストレングス視点に着目し、「ハサミを使うという役割」を与えられることによって、本人が自信を持ち達成感を得ていることを示している。

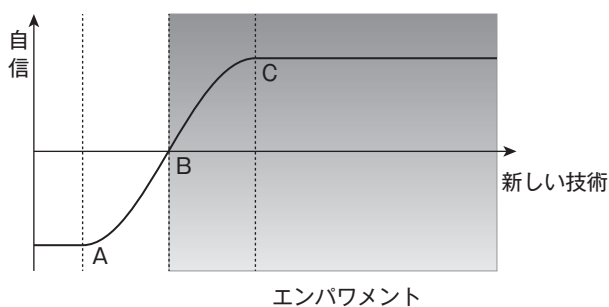


図3 エンパワメント型

資料：筆者作成

また、図4は、ストレングスに視点を置いた支援をすることによって、生活リズムが安定していくことを示している。それまでは生活リズムが整っていなかったことが（波線部）、本人の持っている技術を活かす機会や頻度が上がることにより自分の技術を活かしたいという希望をかなえ、達成感を得ることによって、出勤日数の増加や定期的な出勤へつながり、そのことが生活リズムの安定に繋がっていることを示している（B点）。

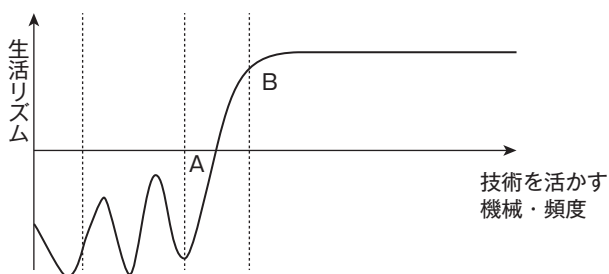


図4 生活リズム定着型

資料：筆者作成

ストレングスに視点を置いた支援は、本人が達成感を得たり、本人のエンパワメントに繋がっている。さらに、新しい技術を取得したり、作業内容が固定的な場合はさらに新しい作業に自ら積極的に取り組んでいく可能性を秘めている。

(2) ストレングス支援に関する問題点

ストレングスに特化した支援を行うと難しい点も出てくる。

第1には、他の作業を依頼しても、作業をしてもらえないことが出てくるところである。好きな作業ばかりお願いすると、その作業以外はしなくなってしまうという可能性がある。

第2に、ストレングスを活かした支援を行っても、その作業の受注が途切れてしまう可能性がある点である。せっかく作業が上手にできていても、その作業の依頼が来なくなってしまうと、継続して支援が継続できなくなってしまう。

第3に、利用者のストレングス視点を見つけるには、支援者の人数が薄いとままならない。利用者一人ひとりの強みを見つけるには、多くの目で支援者を細かく見るということが重要となろう。

注

- 1) 狭間香代子 (2016) pp.1-2.
- 2) 狭間香代子 (2001) p.103.
- 3) 小澤温監修・埼玉県相談支援専門員協会編 (2015) pp.64-65.
- 4) 狭間香代子 (2001) pp.96-107.
- 5) 北野誠一 (2015) pp.100-113.

参考文献

- 朝比奈ミカ・北野誠一・玉木幸則 (2013) 『障害者本人中心の相談支援とサービス等利用計画ハンドブック』 ミネルヴァ書房
- チャールズ・A・ラップ、リチャード・J・ゴスチャ (2008) 『ストレングスモデル 精神障害者のためのケースマネジメント』 金剛出版

Ed,関西大学出版部

狭間香代子（2001）『社会福祉の援助観』筒井書房

狭間香代子（2016）『ソーシャルワーク実践における社会資源の創出－つなぐことの論理－』関西大学出版部。

稲沢公一（2017）『援助関係論入門』有斐閣

北野誠一（2015）『ケアからエンパワメントへ－人を支援することは意思決定を支援すること－』ミネルヴァ書房

太田聡一・橋本俊詔（2004）『労働経済学入門』

小崎敏男・牧野文夫・吉田良生（2011）『キャリアと労働の経済学』日本評論社

小澤温監修・埼玉県相談支援専門員協会編（2015）『相談支援員のためのストレングスモデルに基づく障害者ケアマネジメントマニュアル』中央法規

栄セツコ・岡田 進一（2005）「精神科ソーシャルワーカーのエンパワメント・アプローチに基づく精神保健福祉実践活動－実践活動の現状とその活動を促進させる関連要因－」『生活科学研究誌』pp.205-216.

Saleebey,D(2009) :The strengths perspective in social work practice Allyn and Bacon,Boston

杉本敏夫監修・津田耕一、植戸貴子編（2002）『障害者ソーシャルワーク』久美出版

高山直樹・川村隆彦・大石剛一郎（2002）『権利擁護』中央法規